小学校高学年《5・6年生》のみなさんへ

夏休みおすすめ本リスト　　登別市立図書館 ［2015年版］

	書名　作者名　出版社	内容
絵本	「グーテンベルクのふしぎな機械」 ジェイムズ・ランフォード 作 千葉 茂樹 訳 あすなろ書房 □	1450年ごろ、ドイツに登場したグーテンベルク印刷機は、どのようにして作られたのか？ 当時の人たちの服そうや、職人の働きぶり、印刷された本への愛情が伝わる。 活版印刷術の始まりを美しくえがいた、歴史絵本です。
絵本	「さがしています」 アーサー・ビナード 作 岡倉 禎志 写真 童心社 □	ピカドンを体験した声なき「もの」たちが、さがしています。たいせつな人びとを、未来につづく道を・・・。広島平和記念資料館におさめられている14の「もの」がカタリベとなり、1945年8月6日に、何が起こったのかを伝えます。
図書	「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」 廣嶋 玲子 作 jyajya 絵 偕成社	駄菓子屋「銭天堂」は、幸せをもとめる幸運な人だけが、見つけることのできるお店です。 色とりどりの駄菓子を手にしたお客さんには、時に人生も変わるほどの不思議な出来事がおこります。 さて、今日の幸運なお客さんは・・・？
図書	「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。」 マララ・ユスフザイ 述 石井 光太 文 ポプラ社 □	日本の子どもは、教育を受ける事ができます。でも、15才のマララ・ユスフザイさんの母国パキスタンでは、学校へ行って勉強をしたいと主張し続けただけで、頭をうたれました。 マララさんの国際連合で行った演説を元に、子どもが学校へ通うことの意味を考えます。
図書	「つづきの図書館」 柏葉 幸子 作 山本 容子 絵 講談社 □	「青田早苗ちゃんのつづきが知りたいんじゃ!」司書の桃さんにそう言ったのは、絵本の中から出てきた、はだかの王様でした。いなか町と図書館をぶたいにした、ユーモアたっぷりの心が温まるファンタジーです。

	書名　作者名　出版社	内容
図書	「徳田さん家はおばけの一家」 ねじめ 正一 作 武田 美穂 絵 講談社 □	おばけの徳田家は、血のつながっていないよせ集めの家族です。ある日、徳田家のみんなが働く、浅草おばけ屋しきが閉館し、「わんにゃん天国」というしせつができると聞きました。でも、「わんにゃん天国」にいる犬やねこの様子がおかしいと知り・・・。
図書	「お皿のボタン」 たかどの ほうこ 作・絵 偕成社 □	かざりだなの上に置かれたお皿の上で、とれたボタンたちは（ボタンでないものもときどき入っていたり）、なぞとロマンとぼうけんうずまく人生を、にぎやかに語り合いくらしています。いつかまた、服にぬいつけられる日を待ちながら・・・。
図書	「星の王子さま」 サン=テグジュペリ 作 内藤 濯 訳 岩波書店 □	サハラさばくに不時着した主人公の「ぼく」は、とてもとおく、とても小さな星からやってきた王子だという、不思議な少年と出会いました。 100以上の言語にほんやくされ、読まれてきたサン=テグジュペリの名作童話です。
図書	「ぼくの仕事場は富士山です」 近藤 光一 著 講談社 □	山登りなんて興味のなかった男を夢中にさせた富士山は、自然のきびしさとすばらしさ、そして人の心の温かさを教えてくれます。500回近く富士山に登った作者が、ガイドとして見た富士山のよいところと、思いをつづっています。
図書	「真夏のオリオン」 福井 晴敏 文 網中 いづる 絵 講談社 □	戦争末期、日本のせんすいかんのかん長は、戦死した乗組員を海へ流すとき、「真夏のオリオン」と題された、1まいのがくふをたくしました。 どうして「相手は人間以下だ」とにくしみあい、戦わなければならなかったのでしょうか。